

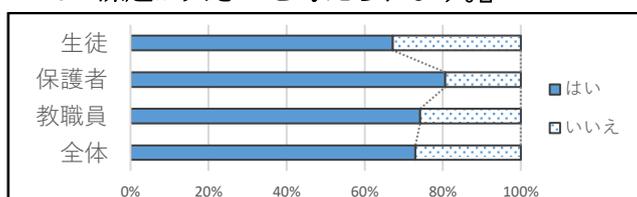
令和5年度学校評価アンケート分析結果 III：進路希望の実現

生徒対象の質問は「あなたは・・・」、保護者対象の質問は「お子様は・・・」、教職員対象の質問は「生徒は・・・」で表記している。

1 (1) 卒業後の進路は具体的に考えていますか。

・生徒約7割、保護者約8割、教職員約7割が「はい」と回答しました。昨年度より生徒の回答は約6ポイント減少しました。

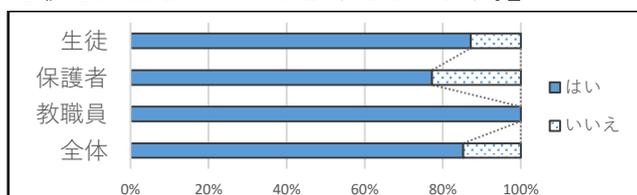
『進路行事などを通して進路について考える機会はおおむね確保できており、多くの生徒が進路について考えることができています。一方で、不登校経験者の多くは、進路以前に毎日の登校や学業についての課題が大きいと考えられます。』



1 (2) 進路行事（進路の日・先輩に話を聞く会・講話等）は、参考になりますか。

・生徒約9割、保護者約8割、教職員10割が「はい」と回答しました。昨年度より保護者の回答は約6ポイント減少しました。

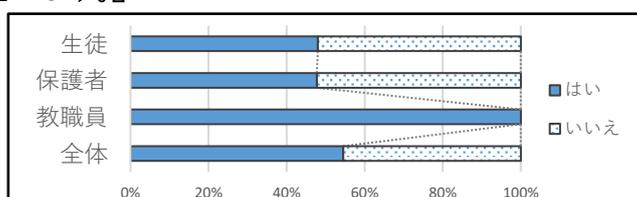
『生徒の実態に応じて、学年や時期に応じた進路行事の内容等を精査し、進路意識を高揚させる取り組みが引き続き実施されていると考えられます。』



1 (3) 進路指導部が発行する進路だよりを読みましたか。

・生徒約5割、保護者約5割が「いいえ」と回答しました。昨年度より生徒の回答は約15ポイント、保護者の回答は25ポイント減少しました。

『進路だよりは、学期ごとに発行し、ホームルームにおいてポイントを確認しながら配付するなどしています。今年度は生徒が読んでいる割合が減少したことに比例して、保護者の割合も減少していることから、進路だよりに対する認識が低い生徒が一定数いることや、保護者の手に届いていないことが予想されます。次年度は、学校HPに掲載することも検討していきたいと思えます。』

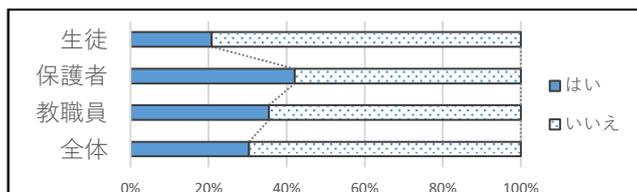


令和5年度学校評価アンケート分析結果 III：進路希望の実現

2（1）先輩方が就職している会社を3社以上知っていますか。

・生徒約8割、保護者約6割、教職員約6割が「いいえ」と回答しました。

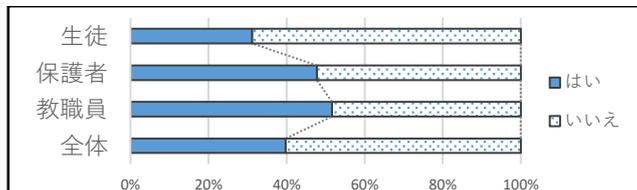
『具体的に就職した卒業生の企業名や様子等は、進路室前に掲示されており、来校した際に、生徒と保護者で情報共有している家庭も見られますが、進路を具体的に考えられていない生徒や、学校に足を運ぶ機会の少ない保護者の方々へは情報が伝わりにくいと考えられます。』



2（2）先輩方が進学している大学・短大・専門学校を知っていますか。

・生徒約7割、保護者約5割が「いいえ」、教職員約5割が「はい」と回答しました。昨年度より保護者の回答は約5ポイント減少しました。

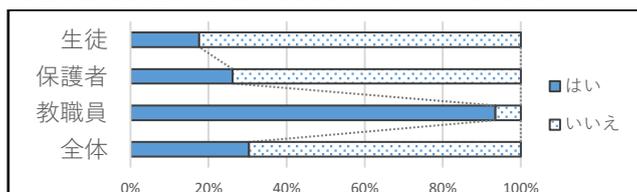
『具体的に進学した卒業生の学校名等は、進路室前に掲示されており、来校した際に、生徒と保護者で情報共有している家庭もある一方、進路を具体的に考えられていない生徒や、学校に足を運ぶ機会の少ない保護者の方々へは情報が伝わりにくいと考えられます。』



3（1）検定や資格を何か取りましたか。

・生徒約8割、保護者約7割が「いいえ」、教職員9割以上が「はい」と回答しました。昨年度より生徒の回答は5ポイント減少しました。

『基礎学力の定着を目標とする生徒が多いため、資格・検定まで手が回らないことが考えられます。検定や資格を取得することで学習や進路活動への意欲向上につながることを考えられるため、様々な検定や資格の周知や受験の呼びかけを行っています。』



令和5年度学校評価アンケート分析結果 III：進路希望の実現

総合所見

「進路を考えている」、「進路行事が参考になっている」という回答が多く、進路に関する情報発信、卒業生講話や進路ガイダンス等の進路行事の充実が結果につながったと考えられます。一方で、「進路を考えている」という割合と比べ、進路だよりも目を通す割合や、卒業生の就職先や進学先の情報を把握している割合が少ないことを考えると、進路についての程度具体的に考えているのかという点で、教職員が考える具体策との間に差異が生じていると考えられます。進路についてより具体的に考えることや、学校からの情報を生徒から保護者へどのように伝えるかという点については、学校HPなどを活用しながら改善していきたいと思います。多くの生徒は、高校入学以前から大きな課題を抱えているため、まずは毎日登校し、健全に過ごすという学校生活が日常化した上で、進路を考える余地を生む必要があるため、進路指導においても、SC・SSW・個別支援コーディネーター等と連携しながら、組織的に取り組んでいきたいと思います。